

状態の副詞は、動作・作用が**どのような状態・様子であるか**をくわしくあら

わす副詞です。情態の副詞と書くこともあります。

状態の副詞は、主に**動詞**の文節を修飾します。

次に状態の副詞の例をいくつかあげましょう。

- ここで **しばらく** 待つ。
- 駅まで **ゆっくり (と)** 歩く。
- 窓を **すぐ (に)** 閉じる。
- 学生時代を **ふと** 思い出す。
- 雨が **いきなり** 降り出す。
- 私は、**ときどき** 不安になる。
- 単語を **しっかり (と)** 覚える。

上の例にある「ゆっくり (と)」「すぐ (に)」のように、副詞は、その語尾に「と」や「に」をともなうことがあります。

その場合、「と」や「に」は付属語ではなく、「と」や「に」まで含めて1語の副詞です。

状態の副詞には、次のようなものもあります。

- 雷が **ゴロゴロ** 鳴る。
- やぶの中から **ガサガサ** 音がする。
- 列車が **ガタゴト** 走る。

- 犬が **ワンワン** 吠える。
- 赤ちゃんが **にっこり** 笑う。
- 牛丼を **ぺろりと** 平らげた。
- 怖くて **わなわな** ふるえる。
- 道が **くねくね** 曲がっている。

上の例の「ゴロゴロ」「ガサガサ」「ガタゴト」「ワンワン」は、それぞれ物音や鳴き声をまねてあらわした語です。

このように、**音や声をまねてあらわした語をぎおんご擬音語またはぎせいご擬声語**と呼びます。

物事の様子に似せて表した語をぎたいご擬態語と呼ぶ。擬声語も擬態語も副詞の一種であり、状態の副詞に分類される。

擬声語は**カタカナ**で表記することが多く、擬態語は**ひらがな**で表記することが多い。

擬声語・擬態語は、「と」をともなうことがある（「ゴロゴロと」「にっこりと」）。その場合、「と」まで入れて一語の副詞と考える。